

第7回 千葉県建築文化賞 表彰作品集



主催：千葉県 共催：(社)千葉県建築士会

後援：(社)千葉県建築士事務所協会 (社)千葉県建設業協会 (社)日本建築家協会・千葉
千葉県建築設計監理協会 (福)千葉県社会福祉協議会 (福)千葉県身体障害者福祉協会

協賛：千葉県住宅供給公社 (財)千葉県まちづくり公社 千葉県土地開発公社
都市基盤整備公団千葉地域支社 千葉県耐震判定協議会 千葉県性能保証業務事務機関
千葉県昇降機等検査協議会 京葉ガス(株) 千葉ガス(株) 大多喜ガス(株)

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 沼田 武

平成12年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は優れた建築物を表彰することにより、建築文化・居住環境に対する意識を高め、うるおいとやすらぎに満ちた快適な街づくりを推進することを目的に、平成6年度に創設しました。

第7回目となる今年度は63点の御応募をいただきましたが、選考委員会の厳正な選考に基づき、建築文化賞6点及び建築文化奨励賞4点を決定しました。

受賞作品は、大規模な建築物から町家を改修したもので幅広く多種多彩ですが、伝統を生かしながら再利用を強く意識したもの、使い手の立場に配慮しつつ斬新な設計を進めたもの、最新の技術力を駆使し省エネルギーに努めたものなど、いずれも21世紀最初の建築文化賞にふさわしく質の高い先導的な建築物で、今後の建築文化の向上に大きく寄与するものがあります。

これらの建築物が地域社会の中で親しまれ、より良い街づくりの推進に貢献されることを期待しております。

千葉県では、新しい長期ビジョンに基づく最初の総合5か年計画として『新世紀ちば5か年計画』を4月からスタートさせます。

この計画では、21世紀における千葉県の更なる発展の基礎づくりを進め、県民一人ひとりの幸せづくりや、地域の自立と発展を目指して各種の施策を展開していくこととしています。

県民の皆様の県政への一層の御理解と御協力をお願いいたします。

終わりに、選考委員をはじめとする関係者や応募された方々、後援・協賛団体各位の御協力に深く感謝申し上げます。

平成13年3月

目次

千葉県建築文化賞について	・・・1	選考経過・総評	・・・2
キッコーマン野田本社屋	・・・3	ぱ・る・るプラザ千葉	・・・4
株式会社 しゅはり本店	・・・5	特別養護老人ホーム 風の村	・・・6
日本貿易振興会アジア経済研究所	・・・7	日本大学理工学部船橋校舎3号館	・・・8
丸山町保健福祉センター 江戸川台西自治会館	・・・9	江戸川台の家 千葉トヨタ自動車(株) 千葉ニュータウン店	・・・10

選考経過・総評

千葉県建築文化賞選考委員会委員長 北原理雄

第7回千葉県建築文化賞は、平成12年9月末までに63点（建築物数56点）の応募をいただいた。

部門別では「景観に配慮した建築物」が36点と多く、「高齢者・障害者等に配慮した建築物」は14点、「環境に配慮した建築物の部」は13点に留まった。

第1次選考は、まず応募用紙の記載と写真をもとに2回の投票を経て16点の調査対象を定めた。

現地訪問は12月中の4日間で行い、関係者の説明を伺いながら建築物の状況を詳細に調査した。第2次選考は、この報告を踏まえ再度投票にかけ、討議を重ねながら優秀な建築物を選定した。

この結果、建築文化賞に6点、建築文化奨励賞に4点を表彰候補作品として決定した。

なお、応募総数が昨年度より減少したことは残念であり、次回はより多くの応募があるよう期待している。

景観に配慮した建築物

景観への配慮では、建築物そのものの質の高さとともに、周辺環境と調和し、すぐれた街並みを形成するデザインが重要な意味を持つ。

本年度の表彰作品は、物的側面だけでなく社会的側面においても、こうした街並みの文脈へのきめ細かな目配りを感じさせるものであった。

「キッコーマン野田本社屋」は、“醤油のまち”の環境に配慮した抑制されたデザイン、そして「ばるるプラザ千葉」は、駅に近い密集市街地において複雑な要請に応えたデザインがそれぞれ評価された。

また、「しゅはり本店」は、古い町家を改装した事務所であり、小規模なものだが、歴史的建造物の活用事例として高い質を実現している。

これらは、いずれも甲乙つけがたく、今年度は特にこの部門の建築文化賞を3点とした。

高齢者・障害者等に配慮した建築物

「特別養護老人ホーム 風の村」は、全室個室でありながら“近所づきあい”の育つ環境を用意するなど、ハードとソフトの両面にわたって“もう一つの我が家”の理念が好ましいかたちで実現されており、ほぼ満票の支持を得た。この部門の近年における充実を物語る優れた事例といえよう。

「丸山町保健福祉センター」は、多世代に配慮した明るく開放的な空間構成、「江戸川台西自治会館」は公園の環境に溶け込み、成熟したコミュニティのニーズに応えるデザインが評価され、奨励賞とされた。

環境に配慮した建築物

今年度も、この部門の応募作品は“環境”概念の広さを感じさせるものであった。それは、一方では自然エネルギーの利用から周辺環境への配慮まで、他方では技術的解決からソフトな対応まで広がっている。

「アジア経済研究所」は環境に対する負荷をできるだけ軽減する工夫とともに、デザインの総合的な質の高さが印象的であり、「日本大学理工学部船橋校舎3号館」は“中間階免震レトロフィット”により建築ストックの活用を図る手法の普遍性が共感を呼んだ。

また、奨励賞の「江戸川台の家」は、シンプルな方式による省エネルギーと天然材料の利用が、「千葉トヨタ自動車(株)千葉ニュータウン店」は、材料のリサイクルを念頭においた“有期限建築”の手法が評価された。

選考の基準

1. 千葉県内において、平成7年4月1日から平成12年3月31日までに完成（増築、改築、リフォームを含む）し、現在良好に管理され、また、使用されている建築物で、この表彰の趣旨に適合しているもの。
2. 優れた建築物であり、次のいずれかに該当するもの。
 - ①地域の特性や周辺の環境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出し、地域の景観形成に寄与しているもの。
 - ②安全性・快適性・利便性に優れ、高齢者や障害者等がいきいきと豊かな生活が送れるように十分な配慮がなされ、社会活動への参加が容易に出来るような環境整備がなされているもの。
 - ③エネルギーの省力化や資源の高度な有効利用を図ったり、地域生態環境と親和させるために、自然を取り入れた建築の工夫がなされるなど、人と環境に対して安全安心で健康快適な室内環境の性能について配慮がなされているもの。
3. 建築基準法等の各法令に適合しており、近隣との紛争が生じていないもの。